

令和7年度
いこまSDGs
アクションネットワーク
活動報告

まち全体のSDGs達成へ



SDGs未来都市
I K O M A



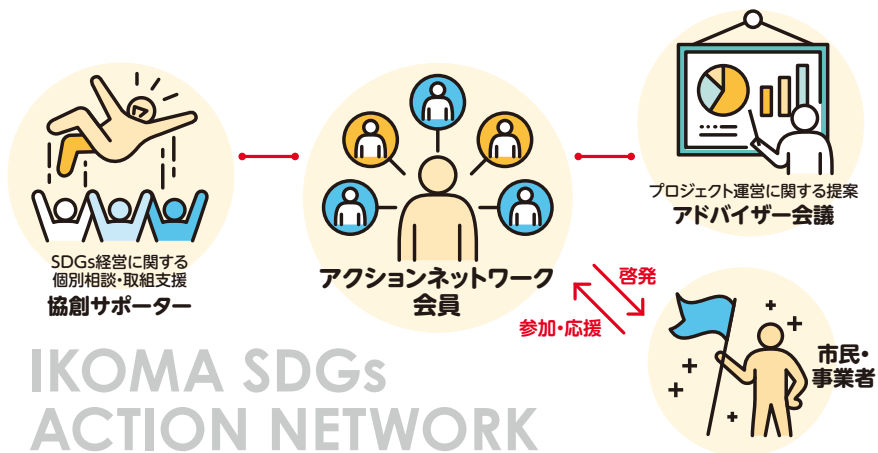
いこまSDGsアクションネットワークとは？

市民や企業・団体など多様な仲間とともに持続可能なまちづくりを進めるために生まれたのが「いこまSDGsアクションネットワーク」です。

生駒市に関わる企業や団体が会員として参加し、それぞれの強みや知恵を持ち寄りながら、地域課題の解決やSDGsの達成に取り組む“つながりのしくみ”です。

対話や連携を通じて新たなアクションを生み出しています。

あなたも一歩を踏み出し、一緒に新しいつながりを生み出してみませんか。



会員支援の制度

SDGs推進事業補助金

生駒市内でSDGs達成に向け2者以上が連携し実施した事業に補助金を交付。
補助対象経費の1/2(上限額:1年目40万円、2年目20万円、3年目10万円)



セクションミーティング

会員のアイデアを事業化するためのプロジェクト、テーマ単位の集まりです。
会員2者以上で立ち上げ可能。



交流会など

定期的に対面で会員同士が集まる場を設けています。会員による取組紹介、
市からの情報提供、先進事例の紹介など様々なコンテンツを用意します。



市民・地域を巻き込んだ取り組み

会員の優れた活動はネットワーク内の横展開を積極的に図るほか、広く市民に周知する機会を設けます。

●いこまSDGsデリバリー

会員が講師となって市民を対象に開催する出前授業です。セミナー、ワークショップ、体験会など形式も、プログラム内容も自由です。「こんなことをやってみたい」という想いを、市と一緒に形にしてみませんか。まずは気軽にお声がけください。

「コーヒー麻袋で苗ポット制作ワークショップ」(令和7年7月27日開催)

オールサム有限会社、JICA関西との連携 来場者数:18組(応募多数により抽選)



●くらしのブンカサイ

市民が多く訪れる市主催イベントの場で、会員も出展者として参加することができます。自社製品の販売、取り組みのPR、プチセミナーの開催などを通じて、市民との接点を持つことができます。

「くらしのブンカサイ2026」(令和8年2月1日開催)

出展者会員者数:14者 来場者数:1172人



チロル堂×リングスター 夏祭り2025



株式会社リングスター × 一般社団法人無限

● 事業内容

海洋プラスチックごみを配合した製品を題材に、子どもが参加できるワークショップや、市内中学生による、職業体験で企画した商品の販売を実施。

また、大人向けにはトークセッションを開催し、「応援消費」「寄付文化」など、共感による社会貢献を呼びかけました。



● 効果

参加者は海洋ごみの現状を学び、「遠い場所の問題」ではなく自らの生活と繋がる課題として認識を深めることができました。

トークセッションでは、参加者から「消費に対する考え方が変わった」「自分にもできることがあると気づいた」という声が多く聞かれ、「応援消費」という新しい社会貢献の形を地域に根付かせる一歩となりました。



担当者から一言



地球の未来を想うこの日が、生駒の新しい物語の始まりになりますように。

いこいこまつりで取り組む 地域交流と海外文化交流



いこま福祉会 × やまびこネットワーク

●事業内容

多様性社会の実現を目指し、子どもたち、地域の方々に外国の文化などを体験してもらいながら地域の繋がりを深めるイベントを開催。

特定技能実習生としていこま福祉会で働くミャンマーやインドネシア国籍の職員たちによる文化体験ブースや郷土料理を提供する飲食ブースを出展。かざぐるまに通所する障害者の音楽発表や、近所の学生によるステージ発表も実施。



●効果

いこま福祉会で働いている特定技能実習生が地域とつながるきっかけとなるとともに、市民が他国の文化に触れる機会となりました。

地域で実際に務めている人自ら接することで、参加者も海外の文化をより身近に感じられました。



担当者から一言



地域のおまつりとして、多様な文化を発信する地域の活躍するイベントです!

その他の公民連携の取り組み

CSV(共通価値の創造)やSDGs(持続可能な開発目標)の達成などに向けて、民間事業者・大学等の自治体との連携ニーズは日々高まっています。生駒市では、行政の強みである信頼性・信用性や地域ネットワーク等と民間の強みである多様な資源、イノベーション力等を対話によりかけ合わせ、協創による課題解決と新たな価値創造を目的として様々な連携推進に取り組んでいます。

「いこまSDGsアクションネットワーク」は民間×民間の取り組みを支援する枠組みですが、産官学連携に向けた制度も実施しています。

公民連携を進める主な3つの取り組み

① 公民連携の推進「生駒市協創対話窓口」の運営



生駒市では、民間事業者等と行政が対話による相互理解を進め、アイデアを持ち寄り、互いの強みを掛け合わず協創によって、地域課題の解決と民間の取組促進に繋げるため、公民連携の提案窓口「生駒市協創対話窓口」を設置しています。民間事業者等と、対応する市役所内の部署との間に入り、提案を受け付けて

調整する機能や、対話の伴走を行う機能等を担います。

「生駒市協創対話窓口」は「いこまSDGsアクションネットワーク」会員も提案できるので、生駒市と連携可能な提案をお持ちの企業の方々はこちらへご応募ください。



役割



提案方法

協創対話窓口が受け付けている提案方法は下記の2種類です。(令和8年3月現在)

フリー型

民間事業者等が生駒市との連携を希望する事業やアイデアなどを、テーマを問わず自由に提案できる。

テーマ型

生駒市が抱える特定の地域課題に関するテーマを示し、そのテーマに対する連携事業の提案やアイデアなどを民間事業者等から募集する。

提案から実施までの流れ

1 提案

提案者はHP上の専用フォームより協創提案シートを提出

※提案できるのは民間企業(個人事業主も含む)、大学、NPO法人等の団体のみ

2 調整

窓口担当課が提案を確認し、担当部署と協議

3 対話

提案者と担当部署との対話

初回対話は窓口担当課も同席。その後も必要に応じて対話をサポート。

4 実施

連携内容決定、連携事業を実施

② 奈良先端大との連携の推進 「I-SAP」等

生駒市では、市内に立地する国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学との包括連携協定に基づき、様々な分野で連携した取組を進めています。

その一つとして、「いこま産学官アクセラレーションプログラム(I-SAP)」を実施しており、奈良先端大の研究者・学生が有する研究シーズ(※科学技術研究の種)の事業化支援を行い、生駒市に拠点を置くスタートアップの創出や、地域課題解決を図る施策への足掛かりとなることを目指します。

毎年3名ほど採択され、事業化に向け取り組んでいます。採択者と、または奈良先端大と生駒市を交えての3者連携案をお持ちの事業者はぜひご提案ください。



③ 包括、事業連携協定の推進

生駒市では、令和8年2月時点で8件の包括連携協定を締結しています。多岐にわたる分野における課題解決に向け、協定先の強みを生かして取り組みを進めています。

いこまSDGsアクションネットワーク

会員募集中!

生駒市は、SDGsの達成、持続可能なまちづくりに向けて、市域をフィールドにSDGs活動を行う企業・団体等を会員として募集しています。

会員となるメリット

- ✓ 市のサイトへの会員情報の掲載など、市の広報を通じた取組の発信ができます。
- ✓ 市やアドバイザーからSDGsの活動に関する相談や補助金交付など、取組を推進する支援が得られます。
- ✓ 市主催のイベントやリーフレット等で取組を紹介します。
- ✓ ネットワーク会員として、市民に活動のPRができます。
- ✓ 会員相互の交流や、具体的な連携・協力が得られる機会を確保します。



お問合せ先

〒630-0288 奈良県生駒市東新町8-38

生駒市役所SDGs・公民連携推進課

TEL:0743-74-1111

Email:sdgs-action@city.ikoma.lg.jp



いこまSDGsアクションネットワーク

発行：令和8年3月